

愛の巣に お客様がきた話

新生ロリショタ
成年向け



R18
ADULT ONLY
成人向け



すみません、お邪魔させて
いただいております

しかし、これ以上迷惑をかけるわけに
もいきませんので

いやいや
迷惑なんて
滅相もない！

それに、傷もまだ癒えて
いないだろう？ ゆっくりし
ていいでくれ

なあ、なお
ん？

ああ、さつき
のキスでスイッチ
が入ってしまったのか

そうだ尚之助くん。
君も人には言えないような活動を
しているよね。
ああ、身構える必要はないよ。

別に危なつかしいことを頼む
わけでもないからそう警戒はし
なくとも問題ない。

恩着せがましいと思ってもらつて
も構わない。ただ、今すぐにお礼を
返してもらいたいんだ。

…話にもよります。

なおは強くはないが露出
癖があつてね。

そのくらいならば…
それで、保険というものは何でしょ

それも簡単だ。ここで見たこと、
聞いたことを口外しないというものだ

そんな無茶なことは言わないさ
難しいことでもない。ただ保険が
欲しいんだ。

危ないところを助けられた
身ではあります、それでも
できることもあります。

保険ですか？

つまり、あなたたちの行為
を見ればいい…ということですか？

ただ、誰にでも見せた
いわけでもないんだ。

そういうことだ。

わかりました。それでは…
彼もその…限界のようですし



あたまグチュグチュしゅる!!

出す! だすよ!

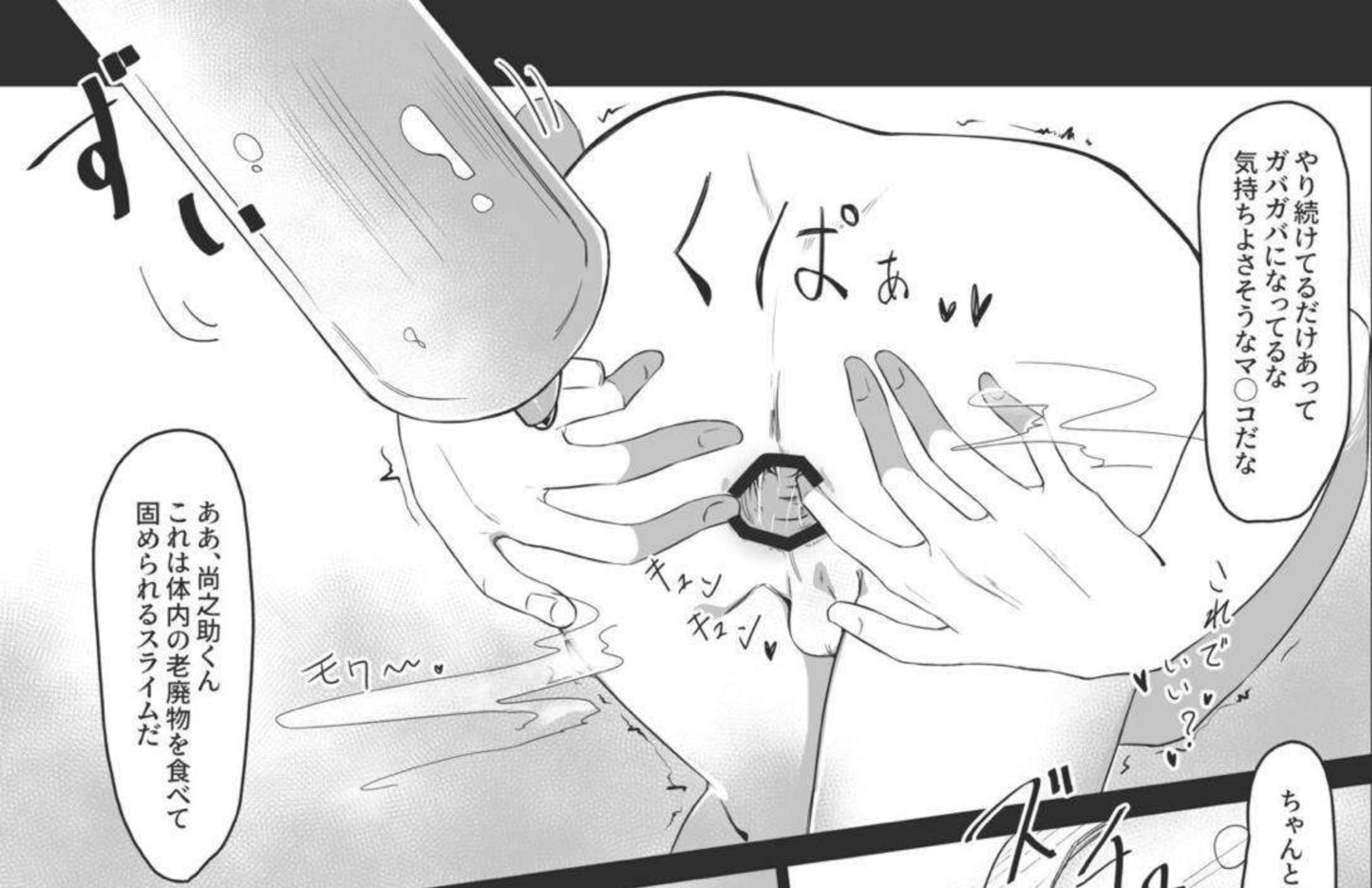
えええ…
わからました…

ケツ穴からローター
踏ん張りだしてみろ

けちゅあな!
うずいてくるう♥!!

だすから見ててッ

いいぞ、なお
そのまま開いとけ



なお、喉奥に行くぞ



おお、おお！
喉マ○コも絶好調だな！



喉奥にッ!! ウッ!!

喉尚之助くん、見てやつてくれ
喉をつかれながらオナニーしてるぞ

あんなに大きなものを喉奥に突っ込み、そのまま射精されたというのにあの恍惚とした表情……。

咽かえるようなオスの匂いに甘い匂い：
私のお腹の奥も……いえ、そんなこと気のせいです

よし、なお。
そろそろいいか？

ほら、こうすればよく見えるし
出しやすいだろ？

尚之助くん、どうだ
なおのケツマ○コは

……口を開けて、ヒクヒクしています。
ゆるくなつて、形もグロいですが：
その、色は綺麗です

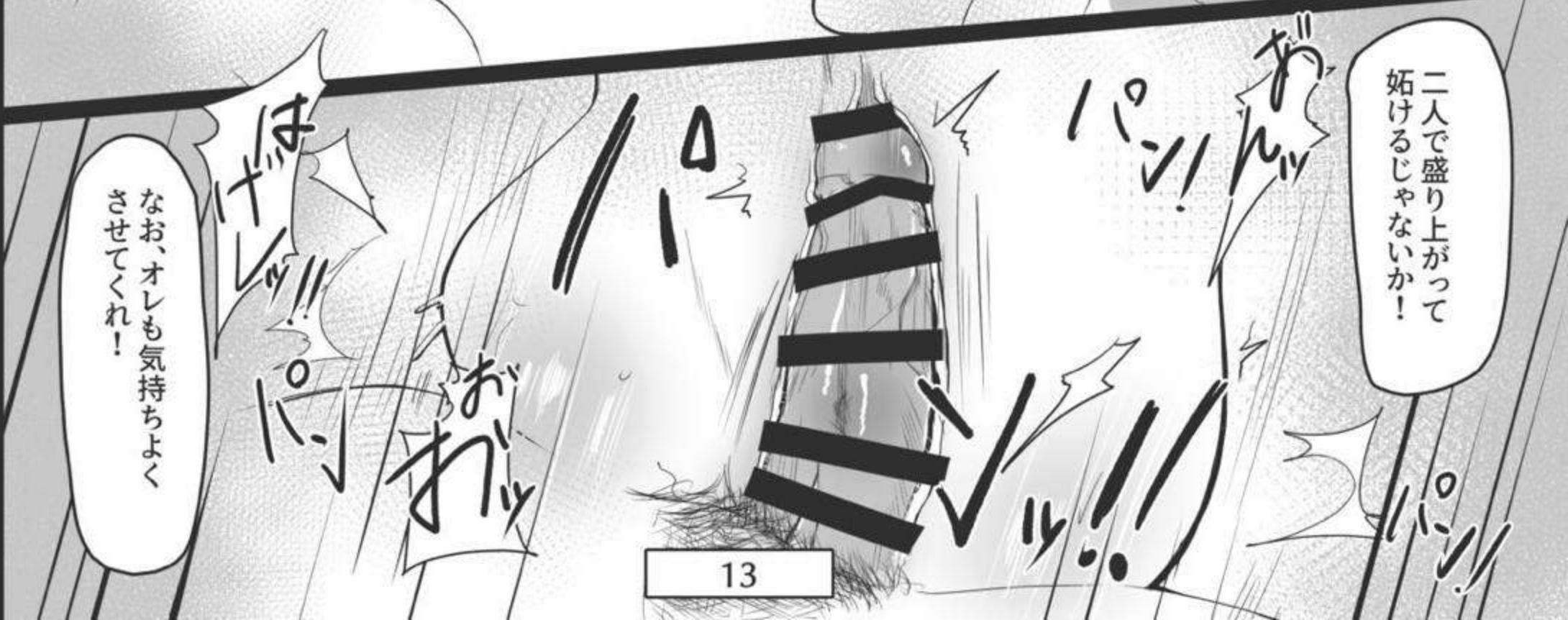
……美味しそう、です



















何度もたたきつけられる
肉の音に、グチュグチュと水っぽい
かき混ぜる音…
それに頭がクラクラするくらいに
濃いオスの匂い…

それと同じくらいに甘いなおさんの
甘いメスのような匂いが合わさって…

いけません…
気を抜けば意識が飛びそうに…

さつきからずつとお腹の下の方が
疼いてきます…
かけられた尚君の精液がついたところは
なぜか熱く感じ、くすぐったくもあり…

頭の中も体も苦しいというのに
どこか気持ちよく痺れてくるようで
私も尚君のように…
ただ見ているだけだというのに…!!

我慢汁をじわーっとズボンにまで
染み込ませてものほしそうな顔
をしているぞ

なお、見てみろ

ああ、なるほど

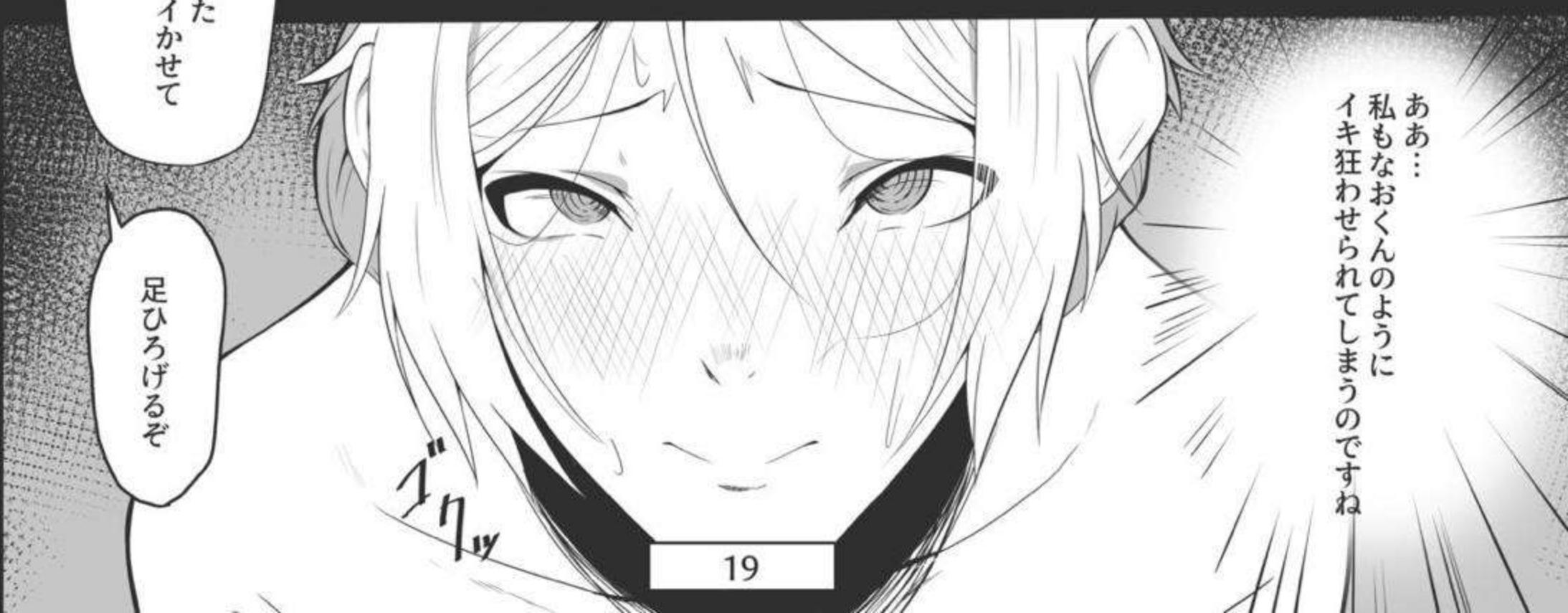
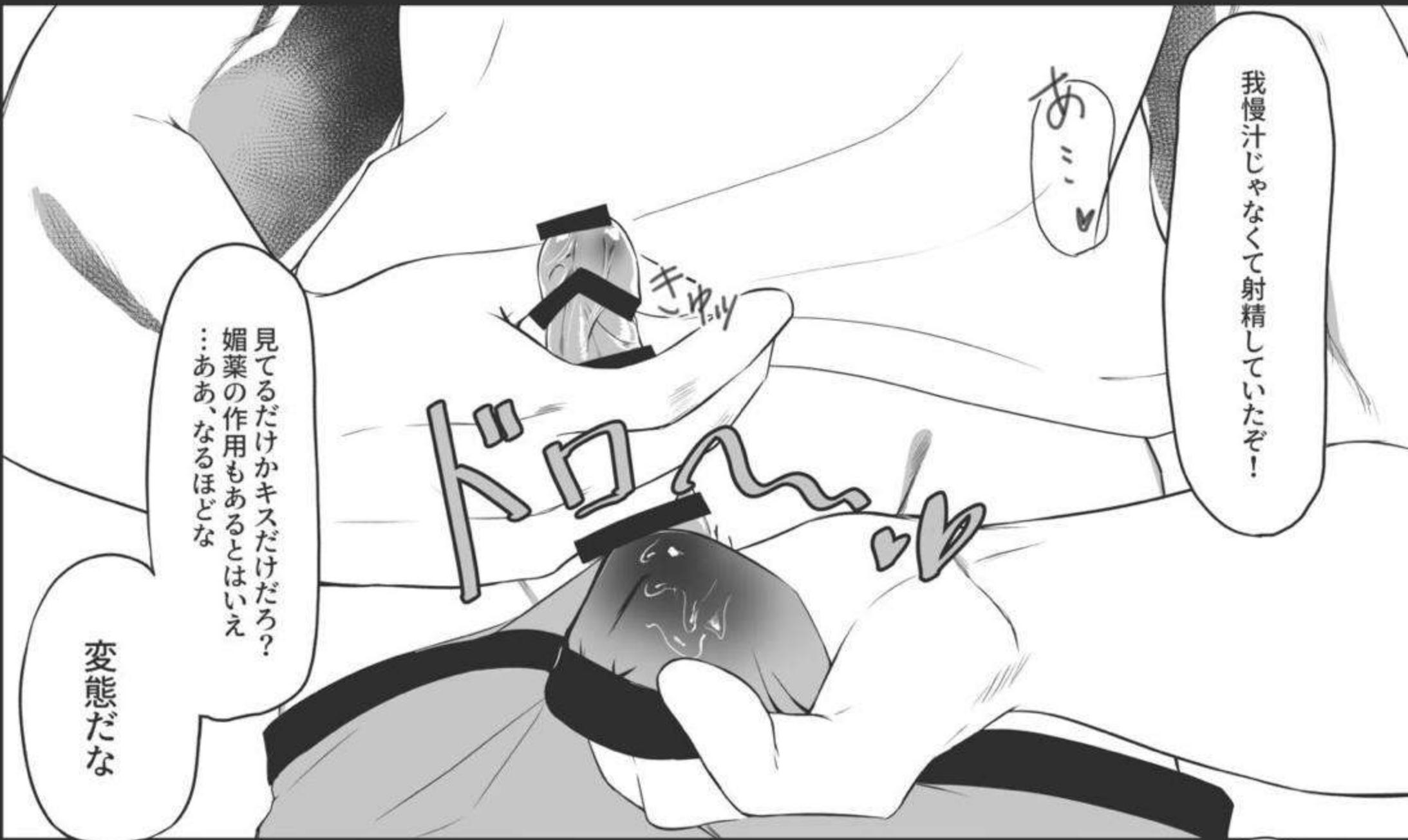
一緒に気持ちよく
ならないかい

ほら、
苦しいだろ？

気持ちよくなるだけだし
文句もないだろ？

こりやすげえ…

とりへ、









いい具合に広がってるよ♥





あとがき

崖っぷちの楓:この度は私の作品を手に取っていただきありがとうございました。私が崖っぷちの楓です。なおくんがおじさんとのいちゃらぶ生活により、ホルモンバランスが崩れ、少し胸が大きくなりました。それに、エロに積極的になり媚薬が入っていたこともあり尚之助くんにもえっちな悪戯をしていましたね!エロに溺れてるのいいですよね!もっと甘々にしたいところです!!

それではまた。ありがとうございました!

Kozi:なおくんに続き楽尚之助も!(*'Δ')
やはりクールな美青年が堕ちる様もたまりませんからな!次回もお楽しみに



web catalog



Twitter(凍結中)



Twitter(新)



dlsite



dmm



english



fantia



メロンブックス

作品名:愛の巣にお客さんがきた話
作者名:崖っぷちの楓、Kozi
サークル名:新生ロリショタ、白い巨峰
pixiv:pixiv.net/member.php?id=43012841
連絡先:hidedayo2010@yahoo.co.jp

発行年月日:2021年05月04日
印刷会社pico

無断掲載アップロード禁止

Kaede



あらすじ

おじさんと暮らす穂希なお。しかし、その日は帰宅すると家にはおじさんが助けたという楽尚之助という青年がいた。

お礼がしたい青年に、おじさんが提示したものは...なおくんとおじさん、そしてそこにお客さんの楽尚乃助。三人が織りなす白く濁りつつも、甘くトロトロにとろけた素敵な一日です。